

名戸ヶ谷ビオトープだより

第27号

2007年10月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

米の匂いが鼻にぷーんと

名戸ヶ谷小の稲刈り



9月5日、台風9号の接近により天候が危ぶまれたが、当日朝、阿部先生より予定通り挙行したいとの連絡を受け、予定より30分繰り上げて9時から稲刈りを開始することになった。

定時に5年生、担任、校長が集合。小笠原さんから「鎌の扱い・稲の刈り取り・束ね」等、事前説明を受けた後、作業開始。稲の頭の垂れが不足したものが目立つ中、ビオトープ会員と一緒に刈り取りを始める。

熱心な児童、生きものに熱中する児童など、個性の違う集団が次々と刈り進み、途中から「束ね・運搬」で参加した6年生の助けを得て90分ほどで作業を終了。心配した降雨もなくほっとしました。

運搬した稲は小学校のプールのフェンスに掛けて天日干し。脱穀の日まで日光浴です。ほどよい乾燥を期待したい。(窪田孝志)



ひとくちインタビュー

- 泥だらけになったけど楽しかった (5年女子)
- 思ったよりも稲を刈るのは難しかった (5年男子)
- 疲れた。でももう一回やってみたい (5年男子)
- どんどん稲が来たから腕がかゆくなった(6年女子)
- 束ねはすごく大変。足も赤くなった(6年女子)
- 稲束を運んでいる時に米の匂いが鼻にぷーんときた(6年男子)
- しんどいです。重くて何回か一輪車を倒しました(6年男子)
- 意外と米が重いのに驚いた(6年男子)
- 子どもたちが楽しみながら稲刈りをしていたと思います(女、先生)
- コツを教わってから子どもたちは上手に刈っていました(男、先生)
- 3年間の経験でビオトープのみなさんと子どもたちの関係も少しずつ定着してきたことを感じます。お互いに指示もうまくなり、相互にうまく距離をとりながら……(男、先生)



子供が鎌で稲刈りをするのは初めて。貴重な体験です。(学校長)

お母さんたちからもひとこと

40年近くも昔、自分も増尾で稲刈りをしましたが、今日の子どもたちは結構上手にやっていました。(5年生の母親)

自分も稲刈りは初めてです。子どもと一緒にいい体験をさせていただきました。(5年生の母親)



雑草の異常繁殖と今年の在来稲作

今年の稲刈り作業は無事終了しましたが、収穫量は大幅減少でした。今年からは専業農家の増田さんが退会され、代掻き以外は経験のない会員による作業になりました。暖冬・苗・田植えなど、色々な影響が作用したのか、雑草（コナギ）の異常繁茂で苗の分割が進まず、また稲の成長も遅れました。有機肥料の散布など新たな挑戦もしたのですが、在来の無農薬・有機栽培の難しさを知らされた一年間でした。今年中に残っている雑草の田起こしをして冬季冠水に努め、来春は不耕起状態で田植えを行い、不耕起栽培に変換していきたいと考えています。水の管理も重要になりますので、水路の整備・畔の修繕も行っていきますので、会員みなさんの協力をお願いします。なお、今年は名戸小の稲刈り後の稲の束ねには麻紐を使用しました（小笠原 智）



雀による被害が目立つも出来はまずまず

今年は暑い夏に悩まされましたが、稲架けパイプの組み立て・稲刈りも30度を超える真夏日の中で行いました。パイプ組立は9月5日（水）に、稲刈りは9月8日（土）・9月9日（日）に行いました。水分を摂っても直ぐに汗となって流れ、トイレに行く必要が全くありませんでした。



9日（日）の午後の稲刈り・棹架けではさすがに疲労困憊し、昔の農家の苦労を実感しました。水田の水落としを早めに長く行ったことから、台風が来ても稲の倒れがなく、稲作全般の出来はまずまずでした。初穂が周囲の水田より一週間早かったこともあり、雀による被害が多くみられたため、来年は雀ネット張りの時期を早めたいと思います。（才川寿磨）



「初穂の田んぼ」初体験— 田圃の泥濘に足がズボッ・・・膝が不安定。生まれて初めての稲刈り。一人だけでは倒れてしまう作業・・・昔の人の苦労。いま忘れかけている日本人の原点を感じ取った一日でした。皆さんの笑顔が素敵でした。いい汗を掻きました。ありがとうございました。今度はぜひ、田植えから誘ってください。（森脇幸洋）

初めての稲刈り— 初めはカマで足を切ってしまうんじゃないか、とか、うまく切れなかったらどうしよう、とかドキドキものでしたが、皆さんの親切なご指導で、未熟なりになんとか、そしてとても楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。藁で稲を束ねるのには感動です！全て自然のものでまかなうところってステキです。（野々山 舞）

熱暑と闘いながら脱穀

不耕起水田—うるち米の部

9月22日は晴天に恵まれながらも残暑厳しき一日。私にとっては、慣れない脱穀機などの取扱いだけでなく、熱暑との闘いで、給水・休憩をしばしばとりながらの共同作業でした。それに比べて皆さんはなんと手馴れた手つき！先輩たちのパワーに圧倒されました。翌23日は涼しき秋の一日で、作業もスムーズに終了！ますます収穫祭が楽しみになる2日間でした。(佐藤 清隆)



豊作を期待して稲架けパイプ組立と撤去作業



9月に入りしのぎやすい気温で時折日差しが覗く9月2日(日)、雀ネット外しと草刈り、稲架けパイプ組立作業を行いました。

ネット外しは順調で、いざこれからパイプ組立作業の段になったところで資材不足がわかり、早速 D2まで出向き調達完了。

山谷技師指導の下、汗水流しながら10人の作業者が左右、上下のバランス測定を念入りに行って三段架けが無事完成。稲架けパイプ設営作業は7分目ほど終えたところで残りの作業は9月5日(水)まで延期。田んぼでは黄金色にふくらんだ稲穂がしっかりと首を垂れていますから豊作は間違いないでしょう。稲刈りが楽しみです(藤平三郎)。

*なお、稲架けパイプの撤去作業は10月1日、雨で延期になった名戸小の脱穀作業に間違えて駆けつけた不耕起のメンバー中心に6人の手でホタルゾーンの遮光幕のパイプ撤去と併せて行われ、ビオトープの風景が見違えるほどすっきりときれいになりました。きつい労働でみんな汗びっしょりでした(広報担当)



新しい植物の仲間が増えました



ビオトープの湿地に新しい仲間が現れました。5月にショウブの花(図左)が現れました。花と言っても写真のような長さ4~5センチの棒状です。ミズバショウと同じサトイモ科の植物ですが、ミズバショウのような白色の帽子がなく、花が剥き出しになっています。ショウブは以前からビオトープの水田脇にありましたが、田植え前の除草で刈られていたため花をつけることがなかったのですが、今年は運よく草刈りを免れ、花を開くことが出来ました。ショウブの葉はご存じのように端午の節句の菖蒲湯に使われます。



8月にはマツカサススキ(図右)が突如現れました。以前ここで生えていましたが、ビオトープになって以降は見られなくなりました。やっと目を覚ましてくれたようです。休耕田などでよく見かける大型のカヤツリグサ科植物です。ショウブもマツカサススキも湿地に生える植物です。新しい仲間を大切にしましょう(佐々木光正)

ビオトープの生きもの



オナジマイマイ オナジマイマイ科

カタツムリとかデンデンムシの名で親しまれているが、正しくは○マイマイと呼ぶ。人里や人家の庭などで見かける。殻幅 15mm、殻高 10mm の円錐形で、色は黄白色または赤褐色で体層周縁に黒褐色の色帯を持つが、色帯のないものもある。小さいが臍孔（へそ）がある。現在、日本では全国的に見られるが、チモール島で発見された帰化動物の一種である。



ウスカワマイマイ オナジマイマイ科

オナジマイマイと同様に人里や人家の庭で見ることができる。殻幅 25mm、殻高 20mm と、オナジマイマイよりひとまわり大きく、殻は薄く球形で黄褐色である。体層は大きく丸い。色帯はなく、臍孔は小さい。外来種ではなく、日本では本州から奄美諸島に分布する。ビオトープでは雨上がりなどに見られることが多いが、数は少ない。（篠崎 将）

防鳥ネット張り

今やビオトープの真夏の名物となったスズメ軍団の襲来に備えた防鳥ネット張り。田を覆う橙色や黄色のネットが朝日にうねって美しい景観をつくっています。恒例の作業で手慣れてきたとはいっても、猛暑の中をお疲れさま。ネットが衣服のボタンに引っかかり、スズメより先に捕まってどうするの。縄文の昔から永々と続いてきた好敵手との闘いだけれど、今年はコナギの繁茂で被害甚大。一粒たりともあげられません。

（上村憲治）



野外観察会でビオトープを見学



9月29日（土）、かしわ環境ステーション主催の秋の野外観察会が行われ、名戸ヶ谷ビオトープと増尾城址公園を篠崎会長の案内で歩きました。約20名の親子、市民が参加し、あいにくの雨の中でしたが、楽しい観察会になりました。観察予定地のいろいろな生きものを事前に捕まえて実物を見せたり、四阿（あずまや）で動植物の写真集を開きながらの説明は参加者に喜ばれ、終了予定時間を30分も超過して増尾城址公園で解散となりました（広報担当）

編集後記

在来水田に繁茂したコナギに土壌の養分を奪われたためか、今年の稲穂は軽い感じ。去年の収穫量からは相当程度落ち込むに違いない。この夏ヨーロッパで猛威をふるった猛暑がビオトープをも襲い、暑さに悲鳴をあげながらも自然を相手の労働の手を休めるわけにもいかない。不耕起水田の収穫量が昨年並みに近いことがせめてもの慰め。とまれ、収穫祭を大いに楽しみましょう。（広報担当 春山）